

## 2014年度 牧場関連事業計画

2013年度より牧場部門の運営管理を全て社会福祉法人が責任を持つことになった。人を耕す「教育農場」としてのデンマーク牧場の歴史を踏まえ、今後は更に「地域に開かれた牧場」として発展させて行かなければならない。

2年目となる今年度も、宗教法人より引き継いだ事業を、社会福祉法人の公益部門、収益部門に分割して行い、運営上においても会計上においても整合性を持ち、かつ途切れることなく着実に遂行していく必要がある。何より自立した運営を原則とし、社会事業本体の経営を脅かすことなく、本体事業を支え、深めるとい牧場事業本来の役割を担いたい。

### 1. 牧場運営（公益事業）

- ① 2014年5月末完成を目途に、牛舎敷地内の一角に新しい井戸の建設（掘削工事、揚水設備設置）を進めている。完成後は、牛舎内及び放牧地にいる家畜への給水を始め、乳製品製造ライン、売店（グリーングラス）、観光トイレ、そして新たに建設する新こどもの家は、この水源から水を供給することになる。旧式ではあったが、これまでの頑強な井戸の揚水設備置に感謝するとともに、停電時は勿論、埋設水道管の経年劣化による漏水のトラブルがしばしば発生して牧場全体が断水となり、生活用水に事欠く事態から解放されることを家畜共々に喜ぶたい。
- ② 乳牛、肉牛をはじめ、羊、鶏等の家畜（経済動物）は、飼育することによる教育的要素を踏まえながらも採算性を積極的に取り入れた経営を行う。
- ③ 採草地を効率的に活用し、飼料として欠かすことのできない干草づくりをスムーズに、かつ収量の増量を図る。
- ④ 「酪農教育ファーム」としての活動を学校や地域の関係者にPRし、利用者の増員を図る。
- ⑤ 「ワークキャンプ」等、牧場を活用したプログラムの利用を図る。

### 2. 乳製品等販売（収益事業）

- ① 原材料費の価格上昇が顕著なため、2014年4月1日から乳製品の値上げを決断した。得意先には丁寧な説明をし、引き続き購入していただくようお願いをしてきた。今後は得意先を減らすことなく、安全・安心で自慢できる乳製品であることをさらにアピールし、顧客獲得を目指したい。
- ② 牧場内の直営売店「グリーングラス」は、訪れた人にとって、楽しい場所、思い出に残る場となるように創意工夫する。
- ③ 自家消費分の乳製品として、法人各施設は積極的にその購入を図る。
- ④ 法人のホームページを通して、乳製品を積極的にPRし、通信販売を含め販路の拡大を目指す。

今後、社会福祉法人の財産であるデンマーク牧場をどう生かし活用していくのかについて、それぞれの施設において知恵を出し合い、さらにそれを法人全体の場で協議し、合意形成を重ねながら進めていく必要がある。